

大撫山から吹く風からも、春の息吹が感じられ、躍動の気配をただよわせるようになった今日の佳き日に、公私ともご多用の中、ご来賓として佐用町長 江見 秀樹様、同窓会長 谷本 学 様、PTA会長 竹田 正史様、佐用町教育長 大森 一繁様、町内4中学校や佐用小学校の校長先生方をはじめとする学校関係者の皆様にご臨席を賜り、兵庫県佐用高等学校第七十八回卒業証書授与式をこのように挙行できますことは、卒業生はもとより本校にとりましても大きな喜びとするところであります。

ただ今、本校における全課程を修了し卒業証書を手にした百二十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

本校の校訓、「自主独立、敬愛協力、創意工夫」のもと、自分から進んで様々なことに挑戦し、親しみの心を持って仲間や先生たちを大切にして、工夫や努力をして新しい考えや方法を考えて高校生活を送ってくれました。

私からは始業式や終業式、学年集会など話ただけでなく、毎週1回「校長お昼の放送」での生放送で、「今日は何の日か」をテーマに色々なことを皆さんに伝えて、皆さんを応援する曲を選曲して放送してきました。また、皆さんが就職試験を目指す前も、大学入学共通テストの前も、皆さんの頑張りを信じて激励してきましたが、皆さんは本当に最後まで頑張ってくれたと思います。

色々と話した中で、今年度初めの1学期始業式で皆さんに伝えた、「I can do」「愛・感動」は、よく覚えてくれていました。「I can do」普通に直訳すれば、「私はできるようになる」ですが、読み方を変えると「愛・感動」となります。何事もできなかったことができるようになれば、「愛」となり「感動」になるので、自分から進んで挑戦して、できることが増えて感動の楽しい高校生活にして欲しいと伝えました。卒業後も、自分を信じて、できなかったことができるようになって「愛・感動」してください。

今年度の塔陵祭では、『SPOTLIGHT ～見せつけろ！今の輝きを～』をテーマに、卒業生の皆さんはクラスが一体となったステージ発表や文化部の発表で盛り上がりました。また、体育大会では、ムカデ競走や大縄跳びの「みんなでジャンプ」、綱引きやリレーで団結して頑張っている姿や仲間を応援する姿に、本当に嬉しく思いました。私自身も、たくさん「愛・感動」の思いを皆さんからももらいました。

本校は、令和8年から「クリエイティブ・ハイスクール」をスローガンに掲げて、「新しい学びで新しい価値を創造する高校」として取り組んでいくことを皆さんに伝えました。本校には、普通科に加えて、農業科学科と家政科があり、専門学科である農業と家庭の両方のある県下唯一の高校です。各学科の特色ある学びを、皆さんはしっかり取り組んでくれました。

これまで皆さんが培ってきた伝統をもとに、各学科の学びの内容を見直すと共に、さらに連携・協働して「学科協働」を進め、豊かな自然、歴史、文化のある地元佐用町や町内の小中学校や、地元企業・施設との「地域協働」をさらに推進して、バージョンアップした他校にはない学びを進めていきたいと思っています。その基礎を作ってくれたのは、皆さんの頑張りであります。ありがとうございます。

さて、今日二月二十七日は何の日でしょうか？数字の語呂合わせで(2=つ、2=づ、7=な)から綴るの意味で、繋ぎ合わせるという意味で「絆の日」とされています。皆さんが3年間過ごした佐用高校で、共に笑い、悩み、切磋琢磨してきた日々は、目に見えない強い絆となって皆さんを支えてきたことでしょう。

また、今から30年目の1996年2月27日に初代「ポケットモンスター」が始めて誕生した「ポケモンの日」でもあります。ポケモン達が「進化」して姿を変えて新しい力を得るように、皆さんは今日の卒業という大きな進化を遂げて、新しい人生の旅へと出発します。そんな、「絆」と「進化」に相応しい日に卒業式が行われることは、素晴らしいことだと思います。

この後皆さんが「旅立ちの歌」として歌う、RADWINPS(ラッドウィンプス)の「正解」の歌詞の内容は、学校で教わる「正解のある問い」とは違って、人生には「正解のない問い」ばかりであるという現実を伝えています。他人が決めた答えではなく、自分自身で悩み、考え、人生の最後で答え合わせをする「自分だけの正解」を探しに行く重要性を伝えています。今日思いを込めて歌うだけでなく、皆さんにとって一生忘れない大切な歌として「正解」の歌詞を時々思い出してください。

今後の人生には、辛いことも、諦めようと思うときもあるかもしれません。その時は、卒業アルバムにも書いた「玉磨かざれば光なし 光なければ石瓦たり」という言葉を思い出してください。ここでいう「玉」とは宝石の原石で、可能性を秘めた皆さん一人一人のことです。宝石の原石は磨かなければ光りません。道に落ちている石や瓦のかけらのように大した価値もありません。磨かれてこそ素晴らしい輝きを放ちます。辛く苦しいときは、宝石が磨かれている時だと信じて耐え抜いて欲しいと思います。皆さん一人ひとり光輝く人生を送ることを心から応援しています。

これまでお子様を励まし支えてこられました保護者の皆様、お子様のご卒業を心より祝福申し上げます。

また、三年間にわたり本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。これからも、本校へのご支援を賜りますようお願いいたします。

百二十三名、一人ひとりの限りない前途に幸多からんこと、そして、これからの人生で目的をもって努力し、夢を実現されますことを心より祈念し、式辞といたします。

令和八年二月二十七日

兵庫県立佐用高等学校長 小倉 裕史